

2021年2月1日

PMAJ SIG 推進部会長殿

SIG 新設提案書（設立趣意書）

佐藤 祐也

1. 新設提案 SIG 名

「ロードマッピング SIG」

2. 提案者(発起人)

佐藤 祐也（イノベーションマネジメント株式会社）

【メンバー公募中】

3. 活動の目的

VUCA World と呼ばれる不確実性の高い現代においても、将来を見据えた研究開発投資が依然として企業の競争力の源泉であることに変わりはありません。変化の激しい環境だからこそ、将来の事業成長を見据え「自社は何者でありたいのか」「そのために何に注力するのか」を改めて定義し、その実現に向けた道筋を主体的に描く必要性に迫られています。将来仮説を基に目指す姿を描き、その実現に向けたシナリオを実行可能な計画（プログラム・プロジェクト）に落とし込み、それを環境変化に柔軟に適応させる。効果的な研究開発投資を行うには、これら一連のプロセスを高いレベルで遂行する必要があります。

しかしながら、多くの企業でその必要性を認識しながらも実行に移せておらず、思うようにパフォーマンスが発揮できていないケースが散見されます。

- 将来の目指す姿の実現のために「やるべきこと」が描けていないために、従来のビジネスの延長線上で「できること」にしか投資できていない
- 「やるべきこと」は漠然とわかっているが、実行可能な計画に落とし込まれず、絵に描いた餅になっている
- 計画はあるが、環境の変化に対し、組織として柔軟かつ整合のとれた対応ができない

「ロードマッピング」はこれらの課題を解決するための方法論として欧米の製造業を中心に取組み発展してきたアプローチであり、近年は日本でも自動車業界を中心に徐々に浸透が進みつつあります。本 SIG では、今後の日本企業において「ロードマッピング」の更なる実践と発展を促進する一助とすること、また戦略－プログラム－プロジェクトを繋ぐ新たなアプローチとして P2M へ提案することを目的に、次項に示す活動を推進して参ります。

4. 活動内容

- (1) 「ロードマッピング」のベストプラクティス（欧米中心）の理解
- (2) 日本企業における「ロードマッピング」事例の共有
- (3) 「ロードマッピング」のベネフィットの整理
- (4) 日本企業における「ロードマッピング」の課題と重要成功要因の抽出
- (5) 日本企業にフィットする「ロードマッピング」アプローチの考察
- (6) 戦略－プログラム－プロジェクトを繋ぐアプローチとして P2M への提案検討

5. 活動成果の PMAJ へのフィードバック

次のような方式を想定する。

- ② 活動状況、中間成果短針などの PMAJ ジャーナル、オンラインジャーナルへの発信
- ② 同じく、月例会等での発表
- ③ ある程度まとまった活動成果の年次 PM シンポジウムでの発表
- ④ 活動の節目ごとの活動報告書の作成

6. 活動期間

まずは 2 年程度を想定する。

7. メンバーの募集方法と運営ポリシー

- (1) メンバー募集方法
 - ・ PMAJ HP を通じての公募と SIG メンバーとなった方の紹介
 - ・ 次の条件を満たす方
 - 上記活動内容のいずれかにインプットを提供できる方
 - 活動の記録を文書化するなど、SIG の運営に貢献できる方
- (2) 運営ポリシー
 - ・ SIG 会合は月 1 回程度、メンバーで合意した時間帯に開催とし、中間の意見交換などは e-Mail や PMAJ のグループウェア等を使用して行う。会合は SIG メンバーで会議室を提供できる企業を巡回して行う。状況によりオンライン会議も想定する。
 - ・ 運営はメンバー間の Give & Take 原則に基づく。
 - ・ 情報交換に当たっては、企業機密保護の原則に抵触しないよう留意する。
 - ・ 折に触れて SIG 外の知見のある方を招いて創発セミナー・ワークショップを開催する。

8. PMAJ にとってのメリット

- ・ 新たな方法論、アプローチを取り込むことで P2M の更なる発展が望め、それを通じた PMAJ の社会貢献の高まりが期待できる。
- ・ PMAJ 会員が集って共通の関心事について掘り下げた研究活動を行うことで、PMAJ への求心力を高める。
- ・ このような SIG の存在により PMAJ の会員獲得への PR 効果が期待でき、また産業界への PMAJ のアピールとなる。

9. 予算措置

別途検討

以上